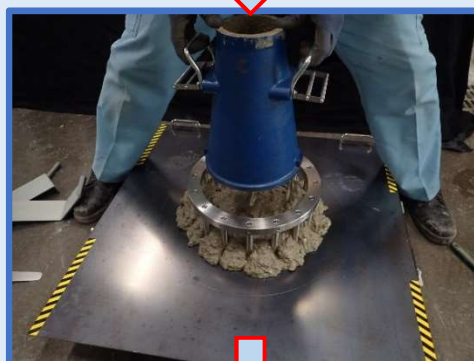
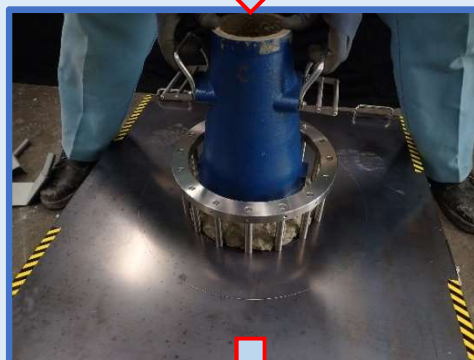
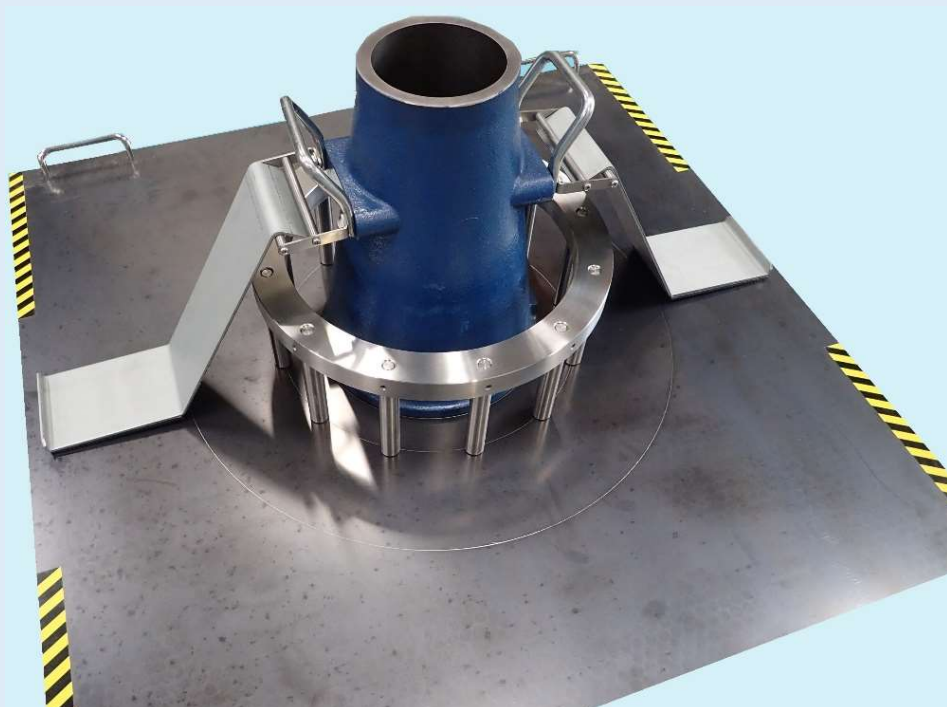


【Test for J-Ring flow of concrete】 JIS A 1159/JIS A 1160

Jリングフロー試験

高流動コンクリートおよび増粘剤含有高性能 AE 減水剤を使用した高流動コンクリートのワーカビリティ(材料分離抵抗性・流動性・間隙通過性)の評価基準



従来のスランプフロー試験にJリングを設置し、Jリングに設けられた障害により間隙通過性を評価



JIS A1160「増粘剤含有高性能 AE 減水剤を使用した高流動コンクリートのワーカビリティの評価基準」

目標スランプフローが500 mm 以上の増粘剤含有高性能AE減水剤を使用した高流動コンクリートに要求されるワーカビリティ（材料分離抵抗性・流動性・間隙通過性）の評価方法です。

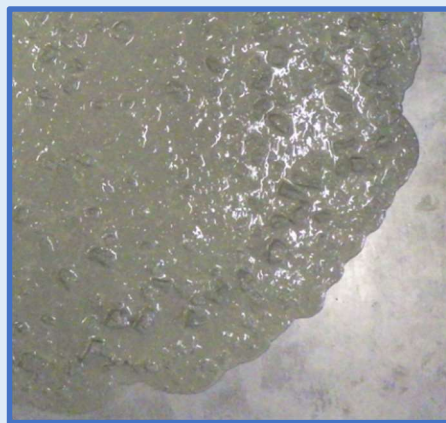
【材料分離抵抗性】

重力・外力などによる材料分離作用に対し、コンクリートの均一性を保持するフレッシュコンクリートの性能です。フレッシュコンクリートの性状を目視観察により評価します。



a)分離していない状態

コンクリートが均一な状態で広がっている。



b)分離している状態

コンクリートの中心部に粗骨材の偏在がみられ、外周にモルタル、水などが偏在している。

【流動性】

重力、外力などによる流動のしやすさを表すフレッシュコンクリートの性能です。表-1 に示す評価基準により評価します。

表-1 流動性の評価基準

評価項目	目標とするスランプフローの区分	流動性の評価基準
スランプフロー	500mm	±75mm
	600mm	±100mm
500mmフロー到達時間	600mm	10秒以下

【間隙通過性】

コンクリートが鉄筋間などの狭さく（窄）部を、材料分離を生じることなく通過するフレッシュコンクリートの性能です。表-2及び表-3に示すPJ値(※1)及びブロッキング値(※2)で評価します。

表-2 間隙通過性の評価基準(PJ値の場合)

評価項目	目標とするスランプフローの区分	間隙通過性の評価基準
PJ値	500mm	60mm以下
	600mm	40mm以下

※1：Jリングフロー測定後のスランプフロー中央部の高さ(Jリングの外側(4点の平均値)のコンクリートの高さの差

表-3 間隙通過性の評価基準(ブロッキング値の場合)

評価項目	間隙通過性の評価基準
ブロッキング値	75mm以下

※2：スランプフロー値とJリングフロー値の差